

## 6 防除対策推進上の問題点及びその対策

農作物名	病虫害名	問題点	対策
イチゴ	ハダニ類	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本県の主要品種「ゆめのか」は、従来品種に比べ茎葉が大きく株が繁茂しやすいため、ハダニ類の発生初期を見逃しやすく、また株内部への薬剤の付着が十分でない場合もあり、防除効果が不十分となった。</li> <li>・「ゆめのか」は長期間の収穫が可能であるが、ハダニ類の多発により収穫を早く切り上げる圃場も見られた。</li> <li>・「ゆめのか」は着果数が多く、3月以降収穫作業が過重となり防除作業が遅れることがある。</li> <li>・安定した効果の期待できる薬剤が少なくなっており、一部地域では新規系統であるピフルブミド剤の感受性低下が確認されている。</li> <li>・生産者の高齢化によりハダニ類の発見が遅れ、発生初期の防除ができなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・化学農業に頼らない防除技術の導入拡大(土着天敵を含むハダニ捕食性天敵、気門封鎖剤、高濃度炭酸ガス処理等)</li> <li>・薬剤感受性検定の実施</li> <li>・新規有効薬剤の登録推進</li> </ul>
たまねぎ	べと病	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生産者が越年罹病株を見分けきれないこと、兼業等のため定期的な抜き取りが徹底できていない圃場で春季に多発する例が見られた。</li> <li>・べと病による茎葉の傷みから腐敗が発生したり、玉肥大が不十分となった</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卵胞子による一次伝染の感染生態の解明と対策</li> <li>・無人航空機防除に使用できる薬剤の登録推進</li> </ul>